

来週の市場とレート予想

	8/28 (月)	8/29 (火)	8/30 (水)	8/31 (木)	9/1 (金)
無担保O/N	△0.086% ~ 0.001%				
銀行券	+ 900	ト ン	ト ン	△ 700	ト ン
財政他	△ 3,800	△ 1,000	△ 1,000	△ 2,000	△ 10,000
資金需給	△ 2,900	△ 1,000	△ 1,000	△ 2,700	△ 10,000
主要要因	国庫短期証券発行・償還 (3M)				
オペ期日	共通担保(全店) △ 1,500 CP等買入 △ 300				成長基盤強化 △260
オペスタート	共通担保(全店) + 1,900 ETF買入 + 1,000	国債買入 + 5,100 短国買入 + 2,500 社債等買入 + 1,000			
(日本)		完全失業率(7月) 有効求人倍率(7月) 基調的なインフレ率を捕捉する ための指標		鉱工業生産指数(7月) 政井日銀審議員 講演・会見 当面の長期国債等の 買入れの運営について	法人企業統計調査 (4-6月期)
(海外)		米 ケース・シー主要20都市 住宅価格指数(6月) 米 消費者信頼感指数(8月)	米 ADP雇用統計(8月) 米 GDP(4-6月、改定値) 米 ハウエルFRB理事講演 欧 ユーロ圏景況感指数(8月)	米 新規失業保険申請件数 (8月26日終了週) 米 シカゴ製造業景況指数 (8月) 米 中古旧宅販売成約指数 (7月) 欧 ユーロ圏消費者物価指数 (8月、速報値) 欧 ユーロ圏失業率(7月)	米 雇用統計(8月) 米 ISM製造業景況指数 (8月) 欧 ユーロ圏製造業PMI (8月確定値)

【インターバンク市場】

無担保ターム物	予想レンジ
SPOT 1M	△0.045 ~ 0.030
SPOT 2M	△0.035 ~ 0.040
SPOT 3M	△0.030 ~ 0.050
SPOT 6M	△0.010 ~ 0.080

＜インターバンク＞

日銀当座預金残高は週初、短国・国債発行を主因に先週末対比4兆6,000億円減少し、360兆3,900億円から始まった。その後は短国・国債買入オペ等の要因を受けて増加し、週末には362兆3,700億円となった。無担保コールON物は、週を通して△0.075～△0.035%で取引された。また、一部試し取りによって+0.001%の出合も散見された。ターム物は1～2W物を中心に、主に△0.045～△0.025%の出合が見られた。25日に発表された7月の全国消費者物価指数(生鮮食品を除いたコアCPI)は、前年同月比0.5%上昇し、7ヵ月連続のプラスとなった。来週は、国内では29日に完全失業率(7月)、海外では9月1日に米雇用統計の発表が予定されている。

【オープン市場】

CP3M(a-1+)	マイナス ~ 0.001
TDB 3M	△0.130 ~ △0.200
現先(on/1w)	△0.100 ~ 0.000

＜C P＞

今週の入札発行総額は約5,500億円で、週間償還額の約4,800億円(金融機関・ABCP除く)を上回った。5・10日発行とその他金融や不動産業態の大型発行案件があったため、償還比プラスとなった。発行レートは0%からマイナスでの出合いで、オペレートの低下期待もあって一部銘柄で強めのマイナス札が見られる動きとなった。来週の償還額は、月末日の大量償還(約9,100億円)を含み、1兆3,100億円程度となっている。発行レートは、投資家の運用ニーズの強さからも、引き続きマイナスから0%近辺での出合いとなるだろう。28日に、CP等買入オペのオファーが3,000億円程度予定されている。現先レートは、△0.100%～0%程度の出合いで、横這い圏内での動きを予想する。

＜TDB＞

24日に行われた国庫短期証券3M第704回債の入札は堅調な結果となり、最高落札レート△0.1423%(前回債△0.1243%)、平均落札レート△0.1463%(同△0.1275%)と前回債からマイナス幅を大きく拡大した。25日に行われた国庫短期証券買入オペは、オファー額が2,500億円と3月10日以来の少なさとなったものの、応札倍率3倍、最低利回り格差△0.034%と、需給の良さを示す強い結果となった。セカンダリー市場では売り手がほとんど見られず、新発3M物は少額ながら△0.20%の出合が見られた。来週は31日に3M物の入札が予定されている。

＜レポ＞

週初の足許GCは△0.10%～△0.095%から始まり、週を通してほぼ横ばいの出合い。TDB3M発行日の28日受渡し、国庫短期証券・国債買入オペがオファーされた29日受渡しも水準は大きく変わることなく、△0.10%近辺の水準で越過した。SC取引では10年347回債のbidが多く、25日の国債買入オペ後△0.15%近辺の出合いが見られた。その他2年377・378回債、5年131・132回債、10年333・334・335・336・338・339・340・341・342・343・344・345・346回債、20年161回債、30年55回債、40年10回債などに引合いが多く見られた。

本資料は投資環境等に関する情報提供を目的として作成したものです。本資料は投資勧誘を目的とするものではありません。有価証券等の取引には、リスクが伴います。投資についての最終決定は、投資家ご自身の判断と責任においてなされるようお願いいたします。当社は、いかなる投資の妥当性についても保証するものではありません。記載された意見や予測等は作成時点のものであり、正確性、完全性を保証するものではなく、今後予告なく変更されることがあります。